

02 株式会社コニック

タレパン用金型の供給を世界展開し 板金加工のトータルソリューションを提案

国内唯一のタレットパンチプレス(以下タレパン)用金型の専門メーカーである。タレパンが国内で販売され始めた1970年代にいち早く金型供給を目的に起業したのが、創業者の大川雄史前社長であった。多品種で短納期が求められる板金加工にとって金型の迅速供給は不可欠の要因、との着想から事業化を図ったものだ。1976(昭和51)年に大阪における創業となった。

創業して33年。現在では岡山県勝央町の勝央中核工業団地内に金型センターの機能を持つ本社・岡山工場を置き、受注・生産・配送を岡山の地に統括して日本全国のみならず世界展開を図る。中国自動車・美作IC近くに立地し、物流の利便性を考慮しての進出であった。

タレパン用金型は100%内製 充実した生産設備が短納期化、高品質化を支える

コニックは、タレパン用金型に関してはほぼ100%の内製化を図る。「品質」と「納期」対応のためである。工場内では、マシニングセンター、グライディングセンター、治具ボーラー、放電加工機(NC型彫り・ワイヤー)等が多数稼働し、金型の命とも言うべき熱処理もすべて自社内で行う。工場内には高機能機が展開し、生産機能は秀逸だ。金型の実証試験のためのタレパンも工場内で稼働する。加えて、出荷する金型全数を精度、品質の両面から専用測定機をつかって検査する体制をとっていることも特記しなければならない。顧客からの要望があれば測定データを添付する徹底ぶりである。金型不良は夜間無人運転を行うタレパンにとって不良品の山をつくる要因ともなりかねない。それだけに同社の金型への品質のつくり込みは厳密を極める。

上記設備を駆使し、数百種類におよぶタレパン用金型の短納期対応を徹底する。受注はウェブ、メール、FAX等が主体であるが、大阪・東京・中部・岡山営業所での受注も含め、すべて本社内の金型センターに情報を集約する。納期は最短で受注日発送、長いもので1週間程度だ。半製品化した仕掛り品を在庫し、受注と同時に製品化する。タレパンの持ち



写真1 本社・岡山工場

分である成形型の設計対応も充実させている。

充実した生産システムをベースに「品質・機能の高いタレパン用金型を廉価で短納期で納品する」のを社訓として創業以来一貫して堅持するコニックの姿勢は、顧客の利便性を高め、タレパンの普及ひいては板金加工業界の振興にも大きく寄与してきたことは間違いない。

蓄積したノウハウを組み込み、 時代ニーズに適した金型を次々と開発

金型は加工の原点であり、品質の成否を左右する大きな要因となる。コニックもタレパン用金型の設計・製作に高いノウハウを蓄積してきた。目指すところは“高い生産性”と“高品質加工”の実現であり、“高いロングライフ機能”を持つ金型の開発であった。金型のロングライフ化は結果的にECOにつながることであり、時代ニーズに最も適合したものである。

次に最新機能を搭載したタレパン用金型を3点紹介する。まず、完全工具レスで秒速メンテを可能にしたのが写真2の「PROTECH(プロテック)-II」だ。金型メンテの部品着脱時に六角レンチ等の工具は一切不要、手作業のみで数秒のうちにパンチタイトの調整が完了する。再研磨しろも最大5mm(従来型は2mm)までとなった。

写真3はロングライフを実現するために、単なるコーティングではなく母材に拡散浸透したハイス鋼の3倍以上の超硬質皮膜を持つ「スーパードライパンチ」である。



写真2 完全工具レスで秒速メンテを可能にした「PROTECH-II」

これによりTiCNコーティング型と比較しても4倍以上の長寿命化を実現し、ステンレスのドライ加工や厚板加工に最適である。

写真4は小径丸パンチの低コスト化を実現した「カセットパンチ」。刃先を交換可能な替えパンチスライド交換方式にしたのが特徴だ。ロットが少ない多種の小径丸穴加工に有効である。



写真3 ロングライフを実現する「スーパードライパンチ」



写真4 小径丸パンチの低コスト化を実現した「カセットパンチ」

「3C革命」を掲げ、新たな展開はかる

タレパン用金型を事業のコアとするコニックであるが、10年ほど前からはプレスプレーキ用金型も商品ラインナップに加え、1987(昭和62)年のイタリア・サルバニーニ社との販売提携以来、パンチングマシンやパネルベンダーの国内販売にも実績を残してきた。

定評のあるCADMACを育てた実績から、CAD/CAM/CAEベースのシステム構築を可能とし、板金ソリューション実現のためのシステム対応にも力を入れている。

10月開催の「MF-Tokyo2009」にはコストパフォーマンスに優れたパンチングマシンとパネルベンダーを国内メーカーと提携して初出展する。

ベストセラーを継続するキャドマック社の3次元展開CAD・CMC「G-4」や最適加工CAM・CMC「IST」も出展する。

「CHANGE」「CHALLENGE」「CONTINUE」をコニックの「3C革命」として掲げ、研究開発を通じた独自ノウハウのさらなる提案と、世界戦略への取り組みを加速させている。

欧州、東南アジア、中国への金型販売も進展しており、最近ではインドの需要が伸びている。販売拠点の育成と製造拠点の構築を通じてさらなる活路を拓いていきたいとしている。



大川雅子 社長

株式会社コニック

〒709-4321

岡山県勝田郡勝央町太平台10-5

TEL.0868-38-6151

http://www.conic.co.jp/